５．必要炉数想定

火葬炉数は以下のとおり算定される。

火葬炉数＝（年間火葬件数×１／稼働日数×集中係数）／１炉１日当たりの火葬数

＝6,634／300×集中係数(A)／１炉１日当たりの火葬数(B) ＝22.113×A／B

（稼働日数：300 日（実績値より）　集中係数（A）：1.5（火葬場の建設・維持管理マニュアルより）

１炉１日当たりの火葬数（B）：2.0、2.5、3.0

運転スケジュール案によって、待合室数等が関係してくる。本計画においては、12 炉、14 炉を候補として、運転スケジュール案を作成し検討した結果、火葬と次の火葬との間隔にゆとりがあることなどより、14 炉とすることにした。冬季を想定した集中係数を 1.25 とした場合、14 炉で１炉･1 日にあたり、2 件の火葬件数となる。集中係数を 1.5 とした場合でも、１炉･1 日にあたり、2.5 件で対応可能となる。

表 - 4 火葬件数と火葬炉数

集中係数		1.25	1.5
火葬件数（件／日）		27.7	33.2
１炉当たりの火葬件数	2.0	14 炉（28.0）	17 炉（34.0）
	2.5	12 炉（30.0）	14 炉（35.0）
	3.0	10 炉（30.0）	12 炉（36.0）

６．要求性能の検討・整理

6.1. 基本方針の策定

施設特性や本敷地の環境などを踏まえ、以下の 5 点を本計画の基本方針として設定した。

○水と緑に囲まれた都市の中の静寂な空間の創造

敷地内にある緑や水路を魅力ある空間として再生し、自然豊かな景観を形成すると共に周辺からの視線を遮り落着いた屋外空間を創る。

○心穏やかに故人を送るための空間の創造

故人との最後の別れの場として、落着いた静謐で厳粛な空間を創る。

○誰もが、落着いて利用できる施設づくり（バリアフリー等）

多くの人が利用するが繰返し利用する施設ではないため、誰にでもわかりやすくストレスを感じずに利用できる施設を創る。

○環境へ配慮した施設づくり

長く利用する施設となるため、省エネルギー等、環境性能の高い建築とすると共にメンテナンスのしやすい施設を創る。

○災害時にも稼働可能な施設づくり

大規模災害時にも、機能を停止できない施設であることから、耐震性の確保の上、非常用電源の確保や燃料の備蓄等により、非常時においても機能を維持できる施設を創る。

6.2. 本事業における主な業務

本事業において想定される業務を整理すると以下のとおりとなる。

表 - 5　主な業務

業務	概要	備考
施設整備業務	調査、設計、工事監理、建設、解体、仮設	造成、建築、火葬炉、外構、備品等
維持管理業務	保守管理、清掃、警備、環境衛生管理等	ビル管理等
運営業務	受付、案内、告別、収骨、火葬炉運転等	利用者サービス、売店、事務等

6.3. 施設概要

本事業により配置する施設ゾーンは、次のとおりとする。

表 - 6　施設のゾーン分類

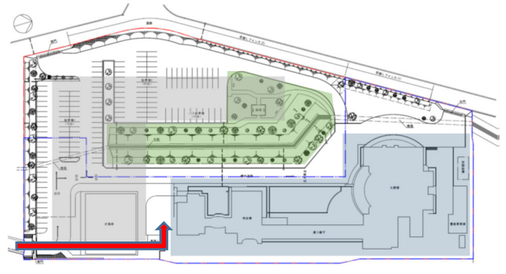
ゾーン	諸室	基本要件
エントランスゾーン	車寄せ、エントランスホール等	会葬者等の心情に配慮した安らぎの感じられる雰囲気の空間とする。
火葬ゾーン	告別室兼収骨室、霊安室、火葬炉及び火葬炉機械室、制御室、倉庫、機械室、従業員用休憩室等	火葬作業諸室が合理的に配置され、ピーク時にも火葬業務が効率的に行える計画とすること。 火葬の作業環境に十分配慮すること。 家族葬や、直葬など多様なニーズに応えらえるよう計画する。
管理ゾーン	事務室、打合せスペース、更衣室、休憩室等	良好な執務条件の確保や作業効率の向上を目指し、コンパクトな動線計画、遮音性の高い快適な執務空間の創出、ゆとりのある作業スペースに留意して計画すること。 また、利用者と火葬場職員との動線を分離すること。
待合ゾーン	待合ホール、待合室、授乳室、キッズコーナー 喫茶、売店コーナー等	会葬者が比較的長い時間を過ごす部屋については、会葬者の心情に配慮し、落着いたゆとりのある空間とし、窓からの景観や遮音性について十分に配慮すること
式場ゾーン	式場、エントランスホール、控室（遺族、宗教者）、トイレ、倉庫等	多くの参列者が同時刻に集まる施設であり、十分なロビー等を備えること。また、同時に複数の葬儀が行われることを想定し、各遺族の動線等に配慮するものとする。
外構ゾーン	駐車場、構内通路、緑地等	既存の樹木を生かした自然の感じられる施設づくりを行うものとする。駐車場については、現状より多い150台～200台程度の整備を目標とすることとした。

７．スクラップ＆ビルド計画検討

7.1. 建設計画案の作成

火葬場については継続したまま建替えを行う必要があるため、火葬に関する機能は残したままとする。式場棟については、使用頻度が低いため建設に伴い、早期に解体するものとする。

表 - 7　想定される建設計画案の概要

概念図			概要
式場棟のみ解体し、建て直す案			
式場棟	**待合棟**	**火葬棟**	**備考**
解体	継続利用	継続利用	仮設建設物は無
			○火葬棟及び待合棟の稼働 ○現在の緑地の保全 ○式場棟の解体（建設期間については、民間施設等により対応） ○南側入口の優先（環境への配慮）